

新たな息吹 SINCE2007



さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>E-mail y3sawano@edu.city.yokohama.jp

10月号

子ども自身が考える

子ども自身が表現する

学校長 鈴木 和枝

「これって実じゃない？理科で勉強したよ！」と嬉しそうに話す子。子どもの中で、円形花壇の本物の花の変化と学習が結びつきました。



先日、校内メンターチームでの授業研究会を実施しました。「メンターチーム」は、「先輩教員が複数の初任者や経験の浅い教職員の仕事、活動、成長を支援することで、相互の人材育成を図るシステム」と定義されています。相互の人材育成を図るシステム・・・ここが大きな要です。

研究授業は国語科。さて、私たちが子どもと学習を進めていく際の一つの拠り所として「指導書」というものがあります。指導書ではこの学習は8時間（8コマ）で計画されていますが、今回の学習は11時間（11コマ）で計画されていました。本校は、午前中は40分を1時間（1コマ）として学習を進めています。学習指導要領に示されている各教科等の標準時数（これは45分を1コマとしています）を満たしたうえで、1単位時間を40分にすることで、子どもの集中力、思考力を持続させたい、また40分授業を実施するとコマ数が多く生み出されるので、そのコマ数を活用して子どもたちの学習状況や身に付けたい力に応じた学習計画を立てたいと考えて日々取り組んでいます。今回の学習計画は、11時間それぞれに課題を設定し、それらを乗り越えて11時間が終了したときに、子どもたちが身に付けてほしい力を明確にしたものでした。計画、実践をしたのは、本校が初任の学級担任です。

また、子どもたちが教材文「やまなし」（宮沢賢治作）のみならず賢治の他の作品を読み味わい、賢治の作品世界を捉え、それに対する自分の考えをわかりやすく端的に表現する（リーフレットにまとめ交流する）言語活動は、全国学力・学習状況調査でも調査項目とされている「他のテキストと結び付けて考える力」「自分の考えをわかりやすく伝える力」といった資質・能力の育成に寄与するものでした。

研究授業の課題は、「賢治が『やまなし』という題名にした理由を考える」こと。ここに子どもたちのワークシートがあります。一人ひとりが課題にしっかりと正対し、考えています。

・ 私は、やまなしは賢治なんじゃないかなと思います。賢治は病気で苦しい中、訪ねてきた知らない人に1時間以上肥料について教えたからです。そして、「やまなし」では、やまなしが谷川に落ちちゃうけれど、だれかを喜ばせることができたらいかなと考えているのだと、（私は）考えました。

この二つは、どちらも「だれかのために」を一番に考えていて、自分をぎせいにしたんじゃないかなと思いました。この共通点から、「やまなし」という題名になったんじゃないかと考えました。

・ 私は、賢治の亡くなった妹のことを想って「やまなし」という題名にしたと考えます。なぜなら、賢治は妹に生きてほしかったから、命を与える「やまなし」を題名にしたと思ったからです。五月は静まり返って終わって、十二月はいいふんいきで終わったので、五月は現実的で十二月は理想だと思ったからです。

大人は、「大人が思う正解？」に一番近い道を歩かせたい。「待つ」ということはほんとうに難しい。でも、子どもの未来、何十年後かの姿を思い描いたときに、今たとえ1年生であっても、その子自身が真剣に考える、判断する、選ぶ、表現する、そうした過程の体験がある学習の積み重ねを大切にしたいと考えます。